

内浦公民館だより

令和5年8月10日発行

〔発行〕

内浦公民館

〒919-2351

高浜町山中 104-4-2

TEL.0770-76-2007

FAX.0770-76-2008

E-mail

uchiura_c.c@town.takahama.fukui.jp

Artfull うちうら

(2023) <vol.119>



内浦公民館講座



ハーブのある暮らし教室～ミントの楽しみ方～



本日のハーブティーは
グリーンマテ・スペアミ
ント・レモンマートルを
使っています♪



令和5年7月2日(日) 内浦公民館 調理実習室で【ハーブのある暮らし教室】を開催しました。講師の一瀬ひろみさんにミントの種類や効能についてお話を聞いた後『歯磨き粉』と『マウスウォッシュ』を作りました。保存料、着色料、添加物を使わずにお家でも作りやすいよう材料を考えてくださいました。皆さん熱心に質問されていましたよ。ハーブを身近に感じる事ができ、生活の中に取り入れていけそうですね。

マイクロプラスチック再利用教室

環境を守る活動にも参加しよう！



令和5年8月2日(水) 内浦公民館 1階会議室で【マイクロプラスチック再利用教室】を開催しました。講師は、カラニカイ(永野由佳)さん。プラスチックゴミを再利用したアンブレラマーカーとイヤリングを作りました。皆さん素敵な作品を作る事ができました。左の写真は、内浦中学校で海のゴミの調査を行っている生徒の皆さんがカラニカイさんに、海のゴミを減らしていく活動やアンブレラマーカーを作るきっかけ等の質問をしている様子です。みんなで海のゴミを改めて考える機会になりましたね(*^^*)

●開館時間 午前8時30分～午後10時 ●利用時間 午前9時～午後9時30分
※夜間利用が無い場合は午後5時で閉館いたします。

もっと詳しく内浦地区を見てみよう～内浦花木生産組合

内浦は自然豊かで草花が多く見られます。内浦地区には【内浦花木生産組合】があります。昭和 43 年頃から始められていて、色々な花木を育ててこられました。今回は【内浦花木生産組合】組合長の永野和夫さんに、詳しくお話を伺いました。

当初の資料<高浜町誌に記載 p412～p413>によると花木の種類は 20 種以上ありました。永野さんに現在出荷している種類を尋ねると 9 種が主な出荷品目だそうです。

『入オラン・シャガ・キソケ・ウメモドキ・サクラ・トウガラシ・アジサイ・ボケ・雲竜桑』です。アジサイの種類の中で花木として出荷されているのは『夢アジサイ』という品種で花びらが固く加工しやすいとの事。『夢アジサイ』は、お盆くらいを目安に決められた長さにカットして乾燥させます。乾燥した『夢アジサイ』を箱に詰めて出荷するのですが、この段階でも自然な色で綺麗です。カラフルな色にする為に出荷先では一度脱色してから着色します。この加工に耐えることの出来るアジサイが『夢アジサイ』です。

『夢アジサイ』と『雲竜桑』は兵庫県丹波にある<大地農園>に出荷されています。あとの品種は<兵庫県生花>と<京都生花市場>に出荷されています。

現在会員数は上瀬区から神野区までの 25 件です。

6 月頃に神野区から上瀬区まで車を走らせると、いちばん目につくのが青い色の『夢アジサイ』です。上瀬区では『入オラン』をたくさん見る事が出来ます。

花木について永野さんは

「花木は実と花があり、花木は他の花にはない季節を感じられるものだと思います。花木は出荷時期が限られています。年中手に入るものではありません。これが花木の良さだと思っています。スーパーで売られている野菜や果物はいつでも手に入る事で、季節を感じることが出来なくなってきています。実際に畑で育てて収穫しなければ匂はわからないと思います。」と話してくださいました。

確かにお店で見ただけでは、匂がいつなのか、どんなふうに実になっているのかわかりません。内浦保育所・内浦小中学校の子供達に野菜の育て方・収穫などの体験を提供されている永野さんだからこそのお話ですね。ありがとうございました。



夢アジサイ

乾燥後、箱に詰めて出荷します。



加工



カラフルに完成



入オラン





今回は 吉村昭著『殉国』です。

「郷土を渡すな。全員死ぬのだ」 太平洋戦争末期、沖縄。中学生にガリ版ずりの招集令状が出された。小柄な 14 歳の比嘉真一は、だぶだぶの軍服の袖口を折って、ズボンの裾にゲートルを巻き付け、陸軍二等兵として絶望的な祖国の防衛線に参加する。

招集令状を受けたのは、旧制中学五年、四年、三年生だけで、一年、二年生のうち約 200 名は、通信隊要員に応募し、数日前に各部隊の無線中隊に配属されていた。

旧制中学校（12 歳から 16 歳の 5 年制）は 5 年生が最高学年だが、学制短縮で 4 年生も 5 年生と同時に卒業することとなり、校長から卒業証書が手渡され、式が終了すると配属将校の中尉が壇上に立った。「お前らは、すでに皇国の兵である。本日ここに鉄血勤皇隊沖縄県立第一中学校隊を編成し、大元帥陛下のみもとに馳せ参ずる」

真一は「俺は、日本人だ。日本人の一人として、沖縄県民の力を内地の人々に示す絶好の機会ではないか。皇国の兵の一人として武勲を立てて戦死し、大和の靖國神社にまつられたい」。

中等学校の各校の生徒は、軍命令にもとづき 1780 名が鉄血勤皇隊を編成され、陸軍二等兵として各隊に入隊した。また女学校の生徒 581 名は、看護婦見習いとして各軍病院に入隊した。

ついに敵が上陸してくる。すさまじい攻撃に負傷者が続出し、真一は負傷者を担架に乗せて陸軍病院壕に運ぶ任務に就いた。今、担架に乗せている伍長は、大量の出血ですでに息がない。捨てるわけにも行かず、命令通り病院壕に運んだ。病院壕はむごい負傷者で溢れて、両手足がない者、火炎放射器にやられ全身焼けただれている者が大勢いた。排泄物や膿の腐臭でいてもたってもいられない。壕は負傷者で充満し、死体は壕外に投げ捨てられるようになる。「俺は弾を一撃も撃っていない。どうせ死ぬんだったら、一人でも多くの米軍兵を道連れにしたい」と、上官に頼んだが許可は下りず、病院壕の任務も大切な仕事だ、と言われる。壕の近くで爆撃があり、一緒にいた友人が 2 人死んだ。顔の半分が吹きとばされていた。「仇は必ず取ってやる」真一は熱い思いがこみあげてきた。

敵兵が姿を見せる、戦車もいる。歩兵陣地に配属され、とうとう戦闘に、戦車に向かって、撃て！撃て！しかし戦車は止まらず何事もなかったかのように進んでくる。敵の爆撃機からも攻撃を受け、まわりの兵隊は爆音とともにばたばた倒れていき、真一もそのまま気を失った。

目が覚めた。まだ生きている。しかし、死体に埋もれて動けない。死にたい。もう嫌だ。人の足音が。誰が近くにいる。米兵か？ 米軍から逃れるために昼間は死体の下に潜り、暗くなると這い出す。死体が腐り始め匂う。蛆が顔をはう、日本兵はいない。まさにこの世の地獄だ。

モデルとなった国吉真一さんは、アメリカ軍に捕らわれ、ハワイに送られ、戦後沖縄に還されます。年月を経て、著者の吉村さんに体験を語ります。国吉さんは「なぜ周りの人や級友はほとんど死んで、私だけが生きていることが申し訳なく、後暗い気がしています」と語ったと言います。

沖縄戦においては、本土決戦準備の時間稼ぎの為、県民が沖縄防衛のために動員され、「軍官民共生共死」のスローガンのもと、15万人の県民が死亡したのです。

戦後、78 年が経過しましたが、終戦記念日には当時を思いをはせ、平和について考えて欲しいと思います。



1982 年に刊行以来、現在に至るまでロングセラーとして読み継がれています



町たんけん



7月20日(木)内浦小学校1.2年生が生活科学習で『町たんけん』に出かけた時の写真です。内浦ぐるりんバスに乗り、上瀬区から神野浦区まで、いろんな場所を見て回りました。見た事のない景色に出会えたようです。皆さんは、どこで撮った写真かわかりますか？



五色山 DE 自然遊山～美術館でも自然を楽しむ～

6月17日(土)～7月30日(日)まで「匠の美術館」で展示を行いました。展示期間中は関連イベントとして、五色山茶席・生け花・展示解説を行い、たくさんの方に来ていただきました。野に咲く花を生けた事で、今までは見逃していた花の魅力を再発見できたり、五色山の景色を楽しみながらお茶をいただいたりと、展示した和紙や陶器に繋がる自然を楽しめる期間でした。ご協力いただいた地域の皆様ありがとうございました！



《地域ニュース》

まきの かい
牧野 耀さん(福井工大福井高)＜日引区＞が全日本スキー連盟から、フリースタイル・スキークロスで強化指定選手Dランクの指定を受けました。福井県勢では牧野さんを含め3名だけです。オーストラリアやヨーロッパ等世界の大会で頑張っている牧野さん。応援しています！



内浦公民館講座のお知らせ

月	日	曜日	講 座 内 容	
8	19	土	ニュースポーツ体験教室②(ボッチャ)	<13:30～15:30>
	22	火	らくらく運動教室(内浦公民館)	<13:30～14:30>
	26	土	季節のお手当教室(～晩夏のセルフケア～)	<13:30～15:00>
	29	火	元気あっぷ生き生き倶楽部	<13:30～15:00>
9	5	火	元気あっぷ生き生き倶楽部	<13:30～15:00>